

国語 第4学年 気持ちが伝わる手紙を書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

お礼を伝える相手と出来事を確かめ、気持ちが具体的に伝わる手紙を書く。学習の記録は、出来事と感謝の理由を対応させた手紙、見直しの記録である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕 B 書くこと(1)ア	ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)キ	キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。

単元の目標

言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(1)ア）

相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

お礼を伝える相手と出来事を確かめ、気持ちが具体的に伝わる手紙を書く学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）	①お礼を伝える相手と出来事を確かめ、気持ちが具体的に伝わる手紙を書く学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全4時間（書4）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認、書く材料や最初の文を出す。 相手との出来事を思い出し、してもらったことと感謝の理由を分けてメモする。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3 （本時）	○相手との出来事を思い出し、してもらったことと感謝の理由を分けてメモする。手紙の形式に合わせ、相手に合う言葉遣いで書き、読み手が分かる内容かを確認する。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	4	○読み手が受け取った意味を確認、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



本時の案

本時の目標：相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「何をしてもらって、どんな気持ちになったことを伝えますか」 【めあて】お礼を伝える相手と出来事を確かめ、気持ち具体的に伝わる手紙を書く。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしてもらったかを書く気持ち伝わる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「何をしてもらって、どんな気持ちになったことを伝えますか」 相手との出来事を思い出し、してもらったことと感謝の理由を分けてメモする。手紙の形式に合わせ、相手に合う言葉遣いで書き、読み手が分かる内容かを確かめる。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・何をしてもらったかを書く気持ち伝わる。 ・相手に合う言葉に直したい。	相手がしてくれたことを口述で確かめ、感謝の理由と対応させる。手紙の形式は教科書で確認し、形式の正しさだけで内容の評価を決めない。 想定する難しさ：お礼の決まり文句だけで、出来事や感謝の理由がない。 評価では、相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしているかを、出来事と感謝の理由を対応させた手紙、見直しの記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 出来事と感謝の理由を対応させた手紙、見直しの記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・相手に合う言葉に直したい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「何をしてもらって、どんな気持ちになったことを伝えますか」。中央は、出来事と感謝の理由を対応させた手紙、見直しの記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

お礼の決まり文句だけで、出来事や感謝の理由がない。この難しさには、相手がしてくれたことを口述で確かめ、感謝の理由と対応させる。手紙の形式は教科書で確認し、形式の正しさだけで内容の評価を決めない。評価では、相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしているかを、出来事と感謝の理由を対応させた手紙、見直しの記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録 出来事と感謝の理由を対応させた手紙、見直しの記録を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。
比べて確かめたこと 最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（4年）「4年上巻」60行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

